

Orphanos

Vol.14

ウーラノス

「ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)」は、「天」を意味するギリシャ語です。新約聖書は、イエス・キリストについて証言する使徒ペテロの説教「ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです(使徒言行録4章12節)」と記しております。この個所にも、οὐρανός が用いられています。

特集

NEW WAVE T.G.U.

『東北学院大学の

近未来の改革』

―最良の教育と研究を提供するために―



2003
OCTOBER



特集 NEW WAVE T.G.U.
同窓生を訪ねて
大学院法務研究科法実務専攻
入学者選抜方法について
学長室より
歴史を伝え、今に導く
大学院より
学部より
国際交流センターより
研究所・センターより
図書館より
協奏、そして共創へ
就職部より
入試センターより

表紙：泉キャンパス

東北学院大学 広報誌
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

聖書に、体の諸器官の存在の重要性を譬えに用いた言葉「すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。だから、多くの部分があっても、一つの体なのです(1コリント12章19-20節)」が記されております。東北学院大学は、地域に貢献する教育を指向しています。それは地域にとどまらず、日本と世界の福祉や文化にも貢献します。本学に託された使命に忠実に歩みたいと願っております。

『東北学院大学の近未来の改革』

—最良の教育と研究を提供するために—



東北学院長・大学長
倉松 功

I

はじめに

大学は、研究なしに存在しません。しかも、大学の自由とは教育の自由ではなく研究の自由のことです。

特に東北学院大学が研究をいかに重視しているかについては、昨年の大学基準協会の相互評価において、一定の評価が与えられました。本学の研究の一つの水準を示すものとして、本年度から与えられた「オープン・リサーチ」補助金があります。これについては、本誌4ページに谷口満教授が詳しく報告していますので、それをご覧ください。

以下は、本学の教育の現状の一端と、近未来の教育に関する改革の方向の二、三を記したものです。

II

法科大学院(ロースクール)の設置と新教養学部

来年4月からの法科大学院開設を目指し、現在準備が進んでいます。法科大学院は法学部の上にあるわけですが、入学定員の3分の1を法学部以外の出身者の中から入学させなければならないという条件があります。このことは、本学の全学部にとって、進学や将来に対する希望という一つのインパクトを与えるものとなるでしょう。法科大学院生の予定入学定員は50名で、どの程度の学生が志願するかわかりません。しかし、本学の中に、高度専門職の言わば「ビジネススクール」の一つの形態としての法科大学院があるということは、大学の一つの機能として重要なものではないかと思われまふ。法学部にかかわるビジネススクールの一つとしての法科大学院の開設が、今後の他学部にかかわる専門職大学院の検討への機会になるというように、将来の東北学院大学のあり方について一つの具体例を与え、

方向を示しているというように思います。しかし、それはまさに一つの方向に過ぎないわけで、東北学院大学全体の教育からすると、教養学部の拡充がより大きな改革となります。教養学部教養学科人間科学専攻・言語文化専攻・情報科学専攻の3つの専攻を、「人間科学科・言語文化学科・情報科学科」の3つの学科とします。そのほかに設置を申請することが決定している「地域構想学科(仮称)」を含め、教養学部4学科への改組を来年度申請する予定です。それは、本学の教養教育の新しい体制を築くということになり、本学が「教養教育型総合大学」であるということ、さらに明確にすることになります。

III

教養学部の教養教育

平成3(1991)年の大学設置基準の大綱化により、専門教育と教養教育の区別がなくなり、学部・学科の専門教育に集約していく形を非常にとりやすくなりました。また、そのために教員の選考において、専門性を重視した採用を進めてきましたが、それは教養学部のあり方に対して不安定な要素となってきました。今回、教養学部を4学科にすることによって、教養教育の内容を豊かにすると同時に、教養学部の本来持っている教養学部全体の教養教育というものを、さらに充実させるきっかけになるのではないかと思います。

教養学部は、本年度で開設15年目を迎えます。教養学部が、既存の学部・学科のように縦割りであったならば、教養学部を充実・拡大させるということは、既存の学科を増やすということになっていたと思います。しかし、教養学部の教養教育は、そのような縦割りの教育をむしろ拒んで、学部全体で、幅広く深い教養、リベラル・アーツ・

カレッジを拡大した総合教育を行ってきました。それにより、教養学部を中心としたL字型の教養教育を一つの基礎とした「教養教育型総合大学」を、継承することができたのです。今後もこの方向を堅持して進んでいきたいと思ひます。

教養学部の教養教育は、ある意味、日本の大学の教養教育のモデルの一つとなっていると思ひます。そのモデルというのは、大学全体が教養教育を行うのではなく、教養教育を教養学部が担うと同時に、教養学部自体の教育を教養教育として完結させるという特色があります。これは、東京大学において行われている方式ですが、日本の大学の中ではユニークなものではないかと思ひます。

文部科学省では、第三者評価機関である財団法人大学基準協会に委託し、「特色ある大学教育支援プログラム」として、教育に対する特別な支援体制を始めました。本学でもこのプログラムに申請するため準備が進められており、特に、これまでの教養学部の教育方法を総括したものを、第三者評価機関から審査を受けるということは重要な意味があります。本学では昨年度、大学基準協会の大学評価の一つである相互評価を受けました。その結果概評の中には、「教養学部が自身では今日的な学科構成を持ちながら、全学共通の教養教育を担うべく努力を傾けていることは、...評価できる。」とありました。今回は、それに続いて同じ大学基準協会の評価を受け、それが文部科学省の評価となるわけであり、よい評価を与えられるよう願っているところです。それは、その評価が今後の本学のFDへの取り組みの参考となるからです。

IV

新しい教養学部の姿

教養学部の改組が検討されたきっかけは、学部の競争力の増大が目立ってきており、また競争力の高い学部で大学全体を牽引していこうという考えがあったからです。新しい「地域構想学科(仮称)」は、当初私が思案したものとはかなり異なっています。私は抽象的な表現ですが、教養学部ということから、むしろ、言語文化学科というものを中心としての地域研究のようなものを考えました。しかし、種々の会議を経て、最終的に「地域構想学科(仮称)」という形になりました。結果として良かったと思ひます。この「良かった」というのは、そのような学科の方が、東北の地域にさらに密着し、そこで受け入れられる学科になったのではないかと思ひます。

地域構想学科(仮称)では、「地域社会を支えるもの」「生涯にわたる健やかな生活」「人と自然のかかわり」という三つの領域を想定しています。「地域社会を支えるもの」の領域では、地域経済や政策などを住民の視点から考え、都市問題や地域づくりに取り組みます。「生涯にわたる健やかな生活」の領域では、地域福祉や地域スポーツを焦点に、心身共に健康な生活を生涯にわたって維持するための諸課題に取り組みます。最後に「人と自然のかかわり」の領域では、自然環境を構成するさまざまな要素を注視し、環境問題に取り組みます。以上のことが、この地域構想学科で行われることになっています。

地域構想学科(仮称)は、文字どおり、町おこし、村おこしに結びつき、また、実習や実地研究の形だけではなく、学問的にも結びつくでしょう。同時に、東北や日本だけを問題とせず、発展途上の他国の地域おこしということも視野に入れたものとなります。この学科で学んだ卒業生の予想され

『東北学院大学の近未来の改革』 —最良の教育と研究を提供するために—

る進路は、公務員、福祉関連、スポーツ団体・企業関連、環境関連、GIS関連、地域に関するあらゆる情報をビジュアルに表現し、そこから地域の特徴を分析するシステム、教員、気象予報士、観光関連などです。

V

TOHOKU-GAKUIN STANDARD 英語力/IT技術

前後二度にわたる学長提案には、今日の東北学院大学が必要としている学部教育・大学院教育・研究の改革の主要なものが含まれていると思います。その一つとして、東北学院大学全体の教育スタンダードといえる、英語教育とIT教育の重点化を既に打ち出しています。ここでいう英語教育とIT教育は、就職活動の際の履歴書に書く点数や資格を得るためではありません。英語教育とは、具体的に、TOEICやTOEFLを点数化して最低点を設け、東北学院大学のすべての学生がある点数以上を持ち、英語コミュニケーション能力を持つということです。また、英語に関連する学長提案のもう一つに、国際交流協定校の拡大があります。これは、総計30校の協定校を選定し、学生収容定員の1%程度の交換留学生の派遣と受け入れを実現しようというものです。もう一つのIT教育は、ITに関する技術や資格を有することによって、社会や企業で通用する人材を育成するということです。もちろんそれらの教育の土台にあるものは、教養教育であり、その上で専門教育を受けて社会に出ていくということが学長提案の意とするところです。

東北学院大学のどの学部・学科の卒業生でも、これだけのものを持っているということは、企業としても安心して採用できるのではないのでしょうか。この実現のために重要なのは、東北学院スタンダ

ードに挑戦し修得できる学生を受け入れることですが、今すぐ実現可能と思われることは、既にいくつかの大学がそうしているように、既に高校時代、あるいは在学中に取得したTOEICやTOEFLのある点数以上を単位換算することです。

なお、IT技術の向上については、工学部の先生方が鋭意検討を重ねてくださいました。近く、画期的な技術向上のシステム導入を提案する予定です。

いずれにしても本学としてはFD委員会(仮称)を設けて、学長提案に関連する教育改革をさらに積極的に展開しなければならないと思っております。

VI

高等教育機関とは

去る8月5日、仙台市教育委員会と東北学院大学は、「小学校英語活動サポート」についての協定を締結しました。そこで、今一度、大学という高等教育機関の役割について考えたいと思います。高等教育機関には、三つの社会的な役割があると思います。一つは社会人に対して、二つ目は中等教育(中学校・高校)に対して、最後に初等教育(小学校)に対する役割です。しかも、その三つとも大学の本来の役割の展開でなくてはならないと思います。大学本来の教育が、同時にそこで役立つ形の展開方法が、一番大学に無理もないし、大学としても発展すると思います。そのために、大学の本来すべきことをやめてということにはならないし、しては行けないと思います。その上で、大学が行うということが、社会人や中等教育、初等教育に対してどのような貢献があるかということになると思います。

初等教育機関の教員になりたいという学生がおりますが、そのような学生にとっては、いろいろな形で初等教育の生徒に接することは意味があるでしょう。その

ような機会をつくるのが、今回の仙台市教育委員会との英語活動に関する提携です。

中等教育に関しては、特に中等教育本来の教育を妨げないということが一方にあり、他方、大学としては大学の教育を抑制しないことが、長期的視野で支援になるだろうと思います。推薦入試などで早い段階に本学への入学が決まった学生に対し、本学での教育を先取りする「入学前教育」を行っていきことができるでしょう。また、本学に決まった学生で、大学教育を受けるための準備ができていない学生に対して、「リメディアル教育(補習授業)」を行っていくこともあるでしょう。

最後に、特に高学歴・高齢化社会の社会人に対して、大学は積極的に貢献できます。それは、大学の講義のエクステンション(延長)や開放といえる公開講座です。今一つは「学都仙台単位互換ネットワーク」を利用した社会人教育です。これは、公開講座のような教養教育のさらに上にくるもので、サテライトキャンパスを設置し、単位互換の講義をすると同時に社会人にも科目履修生として単位の修得ができ、その結果、必要な単位を取得すれば、大学卒業資格を得るといえるものです。現在、「仙台学長会議」の中で検討されていますが、実現されると一種の「リカレント教育」となり、高学歴・高齢化社会における大学の一つの新しい役割になるでしょう。

VII

同窓生へのアプローチ

初等教育、中等教育、社会人教育の枠を考えた時、本学に連なる同窓生についても考えなければなりません。同窓生に対する本学からのアプローチとして二つがあると思います。

一つはA0入試です。同窓生のご子息で、一定の能力を有し、本学

Close Up

「アジア流域文化論」研究プロジェクト 研究活動を開始

文部科学省オープンリサーチセンター整備事業

東北文化研究所長・文学部教授 谷口 満

文部科学省オープンリサーチセンター整備事業として採択された、本学の『アジア流域文化論』研究プロジェクトチーム(代表・細谷良夫文学部教授・研究期間5ヶ年)が、いよいよ研究活動を開始しました。

まず第一に開始された作業は、東北文化研究所・東北産業経済研究所・大学院図書室・中央図書館などに集積されている膨大な関連資料の整理です。この膨大な資料を、できれば短期間で機能的に整理したいというのは、メンバー全員のいわば悲願であったのですが、今回大型のデジタル化システムを設置して、これに取り組むことが可能となりました。大版の書物や古文書から図録・写真にいたるまでの、さまざまな資料のデジタル化作業が日夜続けられています。興味のある方は、土樋キャンパス5号館5階の作業室をのぞいてみてください。

第二は、秋の公開シンポジウムの準備です。11月7日には「プロジェクトII」主催のモンゴル史に関するシンポジウムを、11月29日には「プロジェクトI」主催の「発掘・調査と保存・研究」と題したシンポジウムを開催します。前者では、中見立夫氏(東京外語大学教授)や柳澤明氏(早稲田大学助教授)をお招きして、アムール川流域文化論研究の前提となるユーラシア・モンゴル史研究の新しい視点について討論を行い、後者では、中国宜昌博物館の楊華研究員と古代学協会の浅香正先生、それに本学史学科の辻秀人教授に、長江流域文化論研究の前提となる考古調査と考古資料の諸問題について報告していただく予定です。

第三は、現地に赴いての資料調査と研究情報収集です。長江の上流域・中流域・下流域、内モンゴル、アムール川の中流域・下流域、朝鮮半島、及び雄物川、北上川、石狩川などで、各メンバーが現地調査を実施します。その成果の一部は、早くもこの冬に調査報告や研究論文として学術誌上に公表される予定です。



プロジェクト作業室

での勉学意欲がある場合は、是非AO入試にチャレンジしていただきたいと思います。それ以前に、本法人は、二つの関係高等学校を有しています。本学に御子息を進学させてくださる前提として、最も近い方向は、それらの高校で学んでくださるということもあります。

もう一つは同窓会です。同窓会の目的は、同窓生相互の親睦と研鑽、さらには母校の支援です。同窓会各支部での親睦は数多く行われており、毎年10月には、同窓生を大学に招待するホームカミングデー(同窓祭)を開催しています。また、公開講座を広く提供することにより、勉学意欲にも応えています。また、例えば、東北学院同窓会館でなく、一種のサテライトキャンパスの機能を併せ持つ「東北学院会館」というものをつくり、そこで同窓会が特別な企画を行うということも思い描けるでしょう。

VIII

絶え間ない歩み

最後に、東北学院大学は、感謝すべきことに「地方のブランド」とも表現されています。創立117年という長い歴史を有し、約13万7千人の同窓生や元教職員が蓄積してきた大きな遺産があります。それが、東北地方において受け入れられた評価と言えます。私たちは、その遺産を本当に大切にしなければなりません。そして、それらの遺産と調和させながら、またはそれをういながら、日々改革を続けなければなりません。

文化というのは、生かすことによって力を持つものです。日々改革するところ、毎年改革すべきところは改革し、そして、数年に一度はまとまった大きな改革を実行すべきです。幸いに、本学ではそのような流れができていっているように思われます。



郷土料理で、広島を世界に発信。

株式会社酔心代表取締役社長 東北学院同窓会広島支部長 原田 仁司さん

広島市で郷土料理を提供する株式会社酔心の社長を務める原田仁司さんに、食文化についてのこだわりと、東北学院同窓会広島支部長としての思いをお話いただきました。



原田 仁司はらだ じんじまん
宮城県岩沼市出身
昭和43年東北学院高等学校卒業、昭和47年東北学院大学経済学部経済学科卒業。
株式会社酔心代表取締役社長、東北学院同窓会広島支部長。

原田さんが経営されている『酔心』は、広島郷土料理を提供するお店ですが、「食」についてどのようなこだわりをお持ちですか？

人間が長い年月をかけて培ってきたものは、「文化」と「文明」の二つに大別できると思います。「文明」というのは、人為的に手を加えたものや、科学的方法を加えてできたもので、「文化」というのは歴史や風土風習のようなものです。例えば、ものを食べる時「いただきます」「ごちそうさま」という感覚は、宗教的なものという捉え方もあるかもしれませんが、これもやはり文化だと思うのです。一回の食事の中で、ものを食べる順番というのもそうです。最初からフルーツを食べるといったことはありませんよね。ところが最近はそのようなことが混乱しているような気がします。それは、外食産業の発展がもたらしたものといえるかもしれません。特に、無国籍料理やエスニック料理などがそうです。それはそれでいいのですが、あくまでも他国の文化です。私たちは、日本人であり、そしてこの広島の地で広島郷土料理を提供し、食文化の再認識をしてもらおうというのが、『酔心』のこだわりです。

広島で広島郷土料理を提供することの意味をお聞かせください。

『酔心』の創業は昭和25年です。当時は会席料理を提供する店でした。ただ、料理人自身のこだわりが強く、『酔心』のカラーというものを創るのが難しかったようです。苦労した時代ですね。それではいけないということで、地元人間が幼い頃から食べ親しんできたおふくろの味や郷土料理のようなものを提供しようと考えたわけです。

広島は人類史上において最初の原爆被災地ですから、世界から常に注目されています。放射線影響研究会や平和に関するさまざまな国際会議が開かれていますので、広島郷



土料理を世界に発信することは、義務にも似た私たちの役割だと思っているのです。

「広島で2番目にうまい店」というキャッチフレーズですが、それには、どのような意味が隠されているのでしょうか。

郷土料理というと、家庭料理のようなものと思われがちですが、家庭料理はあくまでも、おふくろの味です。やはりお雑煮ひとつでさえ、あの味にはかなわないのです。だから『酔心』は『広島で2番目にうまい店』。一番はおふくろの味というわけです。いくらレシピ通りにつくっても、同じ味は出せないのですから。

しかし、現在は共稼ぎも多くなり、社会全体が忙しく動いているので、家庭料理にも変化が起きています。まな板と出刃包丁もない家庭があるというのです。これに関しては、私たちにも責任があるでしょうね。核家族や共稼ぎなら、作る量や時間のことを考えれば、やはり、惣菜売場で煮染め50gやおから100gを買った方が安いということになりますから。その辺は非常に難しいところです。

同窓会の広島支部長をお務めいただいておりますが、主にどのような活動をされているのでしょうか。

仙台から離れて20年以上になりますが、住めば都といいますが、広島は住みやすく、仙台との違いに戸惑ったことはありません。しかし、スポーツなどでふるさとの名前を聞いたときには、やはり血が騒ぎます。ほとんどお役目というのはお断りしているのですが、東北学院同窓会広島支部の支部長と、広島宮城県人会の会長だけは引き受けています。毎年さまざまな企業に宮城県の人たちが赴任してきますので、その人たちとメンバーが顔を合わせて、エールを交わしています。広島という縁もゆかりもないところへ赴任したわけですから、心細いはずですが、そのようなときに仙台弁で交流することは心強いと思うのです。異業種交流という意味でも大変有意義です。

本学在籍中に夢中になっていたことはどのようなことですか。

在学中は、硬式テニスに夢中でした。また、フォークソング愛好会の活動もしていました。勉学の方は、選択していたカリキュラム以

外に、会計学を学んでいました。当時、門脇先生や野口先生という、公認会計士の審査員を務めるほどの立派な先生がいましたので、そのゼミの人たちと図書館で知り合いになり、一緒に勉強をしていました。ドイツ語原書でのペイトンやリトルトン、シュマーレンパッハなどの学説は、とてもおもしろいと感じました。

本学で学んだことが、今の仕事にどのようにいかされていますか。

今の事業経営の中でさまざまな財務分析や現状の数値の実態、あるいはそれが最良の序列なのか、どの部分がウィークポイントなのかといった部分の判断は、東北学院大学の図書館で学んだことが基礎になっています。また、リズム感とハーモニーはフォークソングで培ったものかもしれません。数学という客観的なものによって、誰もが正当で妥当と判断しても、それをどのようなリズムでいけばいいのかということが大切だと思うのです。ここは、クレッシェンド、ここはデクレッシェンド、ここはフェルマータだと、そういった感覚的なものを組み込んでいくことも必要なのです。経営者は、作曲家でありコンダクターだと思っています。

在学生や、本学で学びたいと考えている方々にメッセージをお願いします。

私はさまざまな分野で事業活動に取り組み、またこれからも積極的に活動をしていかなければいけないわけです。その私にとっての無形の支えというのが、一つは学院魂。もう一つは卒業と同時に就職した生命保険会社と現在住んでいる広島で培った社会的人脈です。どれが一番かというのは比較にはなりません。一番最初に育まれたのは、学院時代の友達の支えや多くの人とのめぐり合いです。

そして、3Lの精神です。すべての基礎というものがそこにあると思います。皆さんもそういったことを社会生活にいかしていけるよう、有意義な学生生活を送ってほしいと思います。

入学者選抜方法の概要(予定)

東北学院大学では、大学院法務研究科法実務専攻(法科大学院)を平成16年4月に開学するため、現在準備を進めています。入学者選抜方法については、以下のように予定しております。

1 募集定員及び試験日程

前期日程 募集定員 40人

- ・出願受付:平成15年12月10日(水)~17日(水)
- ・試験:平成16年1月11日(日)12日(月)
- ・合格発表:平成16年1月22日(木)
- ・手続締切:平成16年3月4日(木)

後期日程 募集定員 10人

- ・出願受付:平成16年2月16日(月)~19日(木)
- ・試験:平成16年3月2日(火)3日(水)
- ・合格発表:平成16年3月11日(木)
- ・手続締切:平成16年3月18日(木)

合格者の3割以上は、社会人の方あるいは法学部以外の学部を卒業した方とします。

2 選抜試験:次の①~⑤で評価・選抜します。

適性試験

「適性試験」の点数

大学入試センター、日弁連法務研究財団どちらの「適性試験」の成績でもかまいません。

教養試験(60分)

政治・経済・社会・時事問題の基礎知識と日本語・英語の基礎力をみます。

小論文試験(150分)

意見文を読ませ、次のような点を見るための文章(1,600字)を書かせます。

- 論者の議論の骨格を読み取っているか
- その議論に対応した議論(たとえば反論)ができるか
- それらを的確な日本語で表現できるか

書類審査

大学での成績、社会的活動の記録、面接のためのエントリーシートを中心に、本学法科大学院で学ぶ意欲・適性を多面的・総合的にみます。

面接試験(1人20分程度)

個別面接を行い、の書類を参考にしながら本学法科大学院で学ぶ意欲・適性を多面的・総合的にみます。ただし、受験者が募集定員の4倍を超えた場合は、「適性試験」と「教養試験」によって面接試験を受験できる者を選抜します。選抜結果は第1日目の小論文試験終了後に発表します。

3 選抜試験の点数化

最終的な合否判定は、次のように点数化して行います。

【適性試験】200点 【教養試験】50点 【小論文試験】150点
【書類審査・面接試験】100点 【合計】500点

この内容は、今後変わることがあります。最終的内容は、かならず募集要項で確認してください。

お問い合わせは、東北学院大学法科大学院設立準備室(大学院事務室内・佐々木)まで。
TEL. 022-264-6365 / FAX. 022-264-6480

人をつくる。未来を語る。
ヨゼフ・ピタウ大司教による
特別記念講演会を開催

6月28日(土)ヨゼフ・ピタウ大司教(教皇庁教育局長)をローマよりお招きし、土樋キャンパス礼拝堂において「人間形成とキリスト教大学」との 주제로特別記念講演会を開催しました。ピタウ大司教は、(1)大学理念の具現化である礼拝(2)愛に基づくこころ(3)神との和解に基づく教育共同体の自由で開かれた姿(4)高度な学問の構築の重要性を指摘されました。本学の倉松学長が対話者として応答し、講演への理解をさらに豊かなものにしていただきました。講演内容は、発行予定の『講演記念誌』に全文掲載されます。なお、末尾ながらカトリック仙台司教区、学都仙台ルネッサンス研究会、仙台白百合女子大学などのご協力があったことを記させていただきます。



ヨゼフ・ピタウ大司教

第24回 東北学院大学 オープン・カレッジのご案内

本学社会福祉研究所の主催するオープン・カレッジが、『福祉社会論』~希望と不安の中での戸惑い~と題して、学内外の10名の講師による講義形式で開催しています。皆さまのご参加をお待ちしています。

日程:平成15年9月25日(木)

10月2日(木)10月9日(木)

10月16日(木)10月23日(木)

10月30日(木)11月6日(木)

11月13日(木)11月20日(木)

11月27日(木)

時間:18時30分~20時

(9月25日及び11月27日の終了時間は20時20分)

場所:本学土樋キャンパス8号館(5F) 押川記念ホール

受講対象:どなたでも自由に受講できます。
受講料:1,500円(講義報告集及び郵送料を含む10講義分)
郵便振替にて受付します。

From the President.

学長室より

元上智大学学長のヨゼフ・ピタウ大司教が本学で講演

学長 倉松 功

去る6月28日、本学礼拝堂で元上智大学学長、現ローマ教皇庁教育省局長のヨゼフ・ピタウ大司教の「人間形成とキリスト教大学」と題する講演とその後30分程、同氏と学長との対話が行われました。同氏は、キリスト教大学における礼拝の重要性と主要ポストはキリスト者がその任に当たるというクリスチャン・コードについて語り、創造と解放（エクソドス）、福音（十字架と復活）というキリスト教の原理から講演を展開されました。以下はその要約です。〔キリスト新聞2003年9月6日発行より一部転載。なお東北学院時報第619号（9月15日発行）を参照。〕

主要なポストには信仰者を

人間形成は、ひとつの過程である。それは、1日で終わるものではなく、生涯にわたってかかわるものである。キリスト教大学は、その人間形成の過程にどのような影響を与えるべきであろうか。ただ既知的、学問的な教育だけを与えるということではない。また、ただ大学に属している者だけが、それに関係していることではない。小・中・高等学校、大学でも、親の責任が一番大きい。

次に、キリスト教大学はまず第一にその象徴であるチャペルを大切にせねばならない。キャンパスの中心はチャペルでなければならない。学生たちはもちろん、教員・アドミニストレーションに属する教職員たちも、チャペルに出席しなければならない。そうでなければ、チャペルは重要なものではないという印象を学生たちに与えることになるだろう。

日本では、教職員すべてが、キリスト者であるわけではない。無理にそうすれば大きな問題が起こるであろう。しかし、キリスト教大学で、主要なポストにキリスト者がいなくてどうしてキリスト教の精神を守ることができるだろうか。このことを真剣に考えなければならない。

中心的なコアとなる教師は、自分の信仰と、自分の生き方と、自分の学問との一致の模範でなければならない。そして、職員たちも同じ気持ちになって、学生たちを自分たちを自分たちの仕事、自分たちの生き方で導くことはできる。

キリスト教大学の雰囲気

皆が一つの目的に向かって、大学をキリスト教大学として一致して守らなければならない。キリスト教大学は、第一に先生方、職員、学生を大切にすることを目的としている。一人ひとりの学生、一人ひとりの教職員は、神から贈られた宝物である。その宝物を大切にしなければならない。

キリスト教大学には国立大学とは違う、特別な雰囲気があるはずである。そのようなキリスト教大学の雰囲気は、創造の奥義から始まる。それは、すべての人は神によって創られた宝物であり、皆平等であることを意味している。人種差別も、性差別もしてはいけない。よりよい人間にならなければならない。絶対的な者はたったお一人、ただ、神だけである。キリスト教大学では第一に学問の発展、学問の進歩の真理を見せ

なければならない。そして自分の欠点を直し、毎日改革していかなければならない。

大学共同体として歩む

キリスト教大学は、学問的にもいい大学であることが必要である。しかし、それだけではない。はっきりしたミッション（目的）を有している。それを説明し、理解してもらわなければならない。その目的（使命）を実現するように努力する共同体が、キリスト教大学である。

その共同体は、一緒に奴隷の状態から自由の状態に入れている（エクソドス）、それは私たちの信仰の一つの土台である。また信仰の道を歩む者は、一人だけで歩むのではない。信仰者とそうでない者との共同体として歩むべきである。キリスト教大学でありたいならば、第一に創造（すべての人に神から与えられている能力、賜物を用いること）、第二にエクソドス（キリストによって与えられる自由と奉仕）の体験を、一緒にしなければならないのである。

神と人とを結ぶ縦の線を強固に

第三番目は十字架である。十字架はキリストの愛の印である。この十字架をキリスト教大学の印として特に取り上げたい。キリスト教大学のミッション（使命）は十字架であり、それは神と人を結ぶ縦の線。それは、ある意味において、チャペルと同じイメージである。

そして横の線。共同体的なつながり、正義の考え方、弱い人を大切にする考え方、政治的な責任、社会的な思いやり、それが横の線である。しかし、十字架を立てようとするならば、その縦の線をしっかりと、土に深く置かないと、横の線はそのまま倒れてしまう。キリスト教では、正義のことを話しながら神さまのことを忘れてしまうならば、過激な政治運動、あるいは社会運動に陥ってしまう。しかし、縦の線と横の線を一緒にするならば、そのような過激なことはありえないと思う。もう一つ、キリスト教大学において、なければならない要素がある。キリスト教なしには、ヨーロッパ全体の80%の美術はなくなってしまふ。チャペルでもいい、図書館でもいい、何か、美的な教育を与える場所が必要である。美のないところでは、真理、道徳的なこともなくなる。大学は、客観的に何が悪いことであるのか、何が善であって、何が悪であるのかという基準を、学生たちに与えなければならない。

主観的な概念や思弁だけで、道徳観念を決定することはできない。キリスト教大学では主に、倫理の客観的なもの、判断できる基準を聖書に基づいて与えるべきである（文責・倉松）

（なお、「本講演と対話の会」を催すにあたって、学都仙台ルネッサンスのお世話になり、また、カトリック仙台司教区、仙台白百合大学の御援助・御協力を載せました。）

アメリカ大統領に仙台市民の心を届けた シュネーダー院長

経済学部教授 仁昌寺 正一

明治38年6月3日のことです。東北学院のシュネーダー院長は、アメリカ大統領セオドア・ルーズベルトと会うためにホワイトハウスを訪れました。早川仙台市長らから託された日本刀と日本国旗を携えていました。当日の様子を新聞は次のように伝えています。

「官邸白堂（ホワイトハウス）では、「同日正午、……内閣室に待つ事、稍や十分、やがて一方の扉は静かに開かれて当世紀の一大偉人たるルーズベルト氏、笑を含んで一同の面前に立」ち、同行者と順次握手を交わしました。その直後、シュネーダー院長は、

「仙台市に東北学院を開始せし以来、日米両国民の関係頗る親密にして、予の帰米に際し市民は特に是等の二品を閣下に贈呈せん事を託せり」と言い、日本刀と日本国旗を手渡しました。これに対し、ルーズベルトは、「シュネーダ博士、貴君の帰らるる際、予の為め是等の謝辞を日本に持還られよ。剣士の国民として名高き日本有志者より此銘刀を贈られたるは、予の深く喜ぶ処なり。日本人は正義の為に非ざれば決して之れを抜放たず、然れども一度抜かんか邪を正し悪を懲らすにあらざれば再び鞘に納めざる国民なり。予は貴君の親切に謝す」と謝辞を述べました。そして「夫れより雑談数分時、一同満足の意を表して官邸を退出」しました（『河北新報』明治38年7月4日より）

と謝辞を述べました。そして「夫れより雑談数分時、一同満足の意を表して官邸を退出」しました（『河北新報』明治38年7月4日より）

仙台市民が日本のシンボルともいべき日本刀と日本国旗を献上しようとしたのは、「米国が日本の為め尽くせる恩義に対し聊か感謝の意を表せん（同上）」としたからでした。当時は日露戦争の最中でしたが、すでに日本の優勢というかたちで大勢が決し、講和条約締結が待たれる状況となっていました。この時、アメリカ大統領がそのための斡旋に名乗り出たのでした。ちなみに、これにより同年9月にポーツマス条約が締結されたことはご承知の通りです。仙台市民は、日本国民を代表するかたちで、このようなアメリカ大統領の対応に感謝しようとしたわけです。

それにしても、このような出来事からは、当時の仙台市において東北学院がどのような存在であったかが浮かび上がってきます。仙台市民にとって、東北学院は、欧米文化の窓口であったばかりでなく、上述の如き国家の一大事をも簡単に託せるほどの身近で大きな存在でした。シュネーダー院長のことも、アメリカ大統領と直接コンタクトできるほどの人物であることを、仙台市民はよく知っていたのです。

また、このような出来事からは、明治の頃の東北学院の国際交流の姿も見えてきます。今日大きく発展している東北学院の国際交流は、当時のこのような出来事からスタートしたのかもしれない。



明治34年のシュネーダー院長就任時

公開クリスマスのご案内

本年も、公開クリスマスを下記のとおり開催いたします。厳かな雰囲気の中での説教、礼拝堂に響き渡る壮大な演奏をお楽しみください。多くの方々のご参加をお待ちしております。

第15回泉キャンパス公開クリスマス

パイプオルガンの演奏や聖歌隊の合唱、キャンドルサービスなどが行われます。また、小さなお子さまにクリスマスプレゼントも用意しております。

日時：平成15年12月5日（金）

18時30分～

場所：本学泉キャンパス礼拝堂

説教：高田恵嗣牧師（日本基督教

団仙台川平教会、平成9年本学

キリスト教学科卒業）

問い合わせ先：

泉キャンパス事務局庶務係

TEL. 022-375-1122



泉キャンパス礼拝堂

第54回公開東北学院クリスマス

聖歌隊と室内アンサンブルによるオラトリオ「メサイア」の演奏やキャンドルサービスが行われます。

日時：平成15年12月12日（金）

18時～

場所：本学ラーハウザー記念礼拝堂

（土樋キャンパス）

説教：笹森田鶴司祭（日本聖公会立

川聖パトリック教会、昭和62年

本学キリスト教学科卒業）

問い合わせ先：

法人事務局庶務部庶務課

TEL. 022-264-6464



Stream of autumn clouds.

Graduate school info. 大学院より

新進博士の誕生と活躍

経済学研究科

2003年3月、本研究科に在学していた長谷川貴弘氏が、博士課程後期課程の修了にあたって提出した学位論文『中国対外開放政策研究』の審査と最終試験に合格し、めでたく博士(経済学)の学位を取得しました。

序章、第1章「開放政策以前の対外貿易概観」、第2章「開発政策決定の背景とその理論的考察」、第3章「開発政策の推移とその成果(1)―外資導入の拡大―」、第4章「開放政策の推移とその成果(2)―貿易の拡大―」、第5章「対外貿易の発展と外資系企業の貢献―第9次5ヵ年計画期を中心に―」、終章、からなる本論文は、1984年10月22日に鄧小平が中央顧問委員会第3

次全体会議において行った講話を踏まえて開始された中国の、いわゆる改革・開放政策の展開を綿密な資料の探索に基づき解明したものであります。政治的には社会主義、経済的には市場経済を標榜する中国に留学した長谷川氏は、まず語学力に磨きをかけ、可能な限り収集した文献を達意の日本語に翻訳して用いており、現時点での中国研究に寄与するところが大きいものと考えられます。一人の若手研究者が自らの足で中国の大地を歩き、そこに住む人々の生活に触れ、自らの眼と耳で見聞したことをもとに書いた論文は、私たちに雄弁に語りかけるものがあります。

長谷川氏は、再び中国に渡って学ぶことを計画し、目下準備中ですが、さらに大成する日の来ることを期待します。

ところで、2002年2月、本研究科の博士課程後期課程において学位論文『日本経済と外国資本:1858-1939年』の審査と最終試験に合格して博士(経済学)の学位を取得して修了したサイモン・ジェームス・バイスウェイ氏が、これまでの学会活動や学位論文が評価され、2003年4月から日本大学商学部の常勤講師に採用されまして、元気に活躍しておりますことも嬉しいことです。国際関係論などの講義を担当しているとのこと。

オープンキャンパスで見た 東北学院大学

8月1日(金)に『オープンキャンパス』が開催されました。会場となった泉キャンパスと多賀城キャンパスには、約4000人もの高中生や一般の方々を訪れ、キャンパス内を自由に見学したり、模擬授業に参加するなど、“大学生”を体験しました。

訪れた高校生たちは、どのようなことを感じたのでしょうか。

大学で何を学びたいですか？

- 「法学部で少年法について学びたいと思っています。多くの専門家と意見を交わして、もっと深く、広い視野で物事を考えられる人間になりたいです。(県内女子高校生)

キャンパス見学をした感想は？

- 「東北学院大学出身の父の勧めで見学にきました。設備も充実しているし、教授や先輩方の雰囲気もいいですね。(県外男子高校生)



ウクライナからの客員教授と工学研究科での大学院生

工学研究科

工学研究科では、ウクライナ共和国よりチェルネンコ・ヴォロジミール先生をお迎えして共同研究が進められました。先生の専門は「相変態の物理学」と「金属物理学」で、この分野では世界的な業績を数多く残されています。研究関係では、機械工学専攻の伊達先生と共同で、マルテンサイト変態と形状記憶合金の相変態へ及ぼす衝撃変形の影響の研究を行いました。また、教育面では「金属の相変態」に関する特別講義を英語で行われました。先生は、研究や講義を通して、工学研究科の大学院生への学問的刺激を与えられました。工学は普遍的な

性格を持つ学問分野ですから、多少の言葉の壁は気にすることなく英語という国際語を利用して、日本という枠を越えた世界的な共同研究は工学研究科では当たり前のこととして実施されています。

工学研究科では、大学院生が国内の学会発表は当たり前のことです。さらに国際会議でも、先生の特訓を受けて、英語で発表することもあります。そのような学会での発表を可能にするためには、日常的な努力が必要となります。学部学生とともに徹夜で実験をすることもあります。他大学の研究室と合同で研究会を開催し長時間討議

し、お互いの研究の進展を図ることもまれではありません。大学院1年生の間は、学部での知識を元に、技術者として必要不可欠な高度な科目を履修することが最大の目的となります。もちろん研究も着実に進めていきます。2年生になると、修士論文の完成を目指して、実験、解析、調査が教員の厳密な指導のもとに実施されます。修士論文の企画立案、実験や解析の実施、そして論文執筆という過程で、指導教員との密接なふれあいを通して、技術者として必要不可欠な知識や研究方法ばかりでなく、人生に關

Faculty info.

学部より



輝く教育・研究

人間的成長と組織

経済学部(経営学科)講師 板橋慶明

人間的成長と組織とはどう関係しているのかといえますと、直接的には、個人の人間の成長と組織における仕事との間に接点が見つかれば、大きなモチベーションにつながるということになります。より広い視野からとらえれば、人間的成長を促すような(社会的)環境は、それ自体が貴重な資産であるということもできます。人としての存在を得たものが、その生涯を通じて、より完全に成熟した人格に向かって成長するのに好ましい(組織内及び集団内の)関係をどう達成するか、ということを中心テーマにしています。

経済学部

経済の現場から～経済学特殊講義の開講

経済学科の学科課程には、経済学の既存の枠組みに入らない新しい問題や緊急の課題を取り扱うために、「経済学特殊講義(特～□)」が配置されています。この中には、昨年度から始まった野村證券による提供講座も含まれています。今年度前期新たに「現代日本の経済社会の抱える諸問題」と題して、実業人による講義を行いました。その趣旨は、現場感覚を知り、経済学と現実経済とを架橋することにあります。「生きた経済教えます」というフレーズで『河北新報』にも報じられましたが、長期低迷する日本経済の中で、日々さまざまな課題に直面し、それと格闘している実業人の方から、それぞれの分野で問題とされ解決されなければならない課題は何か、その対処法をどのように考えて行動しているのかを、将来展望も交えて、将来に対する悲観のみが大きく膨れあがり希望の灯をともすことがますます困難になっている学生たちに直接に話をして頂き、今、大きな変革のうねりの中にある日本経済や地域社会の実情を「知らせる」ことが目的でありました。もちろん、併せて、人生の先輩として、現実社会におけるさまざまな苦労話や体験談、人生訓など熱く語って頂き、学生の心に火をつけることができたと考えました。

経済学科の教員や同窓会の支援も得て、講師は以下の10人の方々をお願いをしました。仙台市助役加藤義雄氏、七十七銀行常務佐藤勇氏、ヒューレックス代表取締役松橋隆広氏(以上3氏は本学経済学部OB)、東北電力労働組合執行委員長関口哲雄氏、気仙沼イコー社社長佐藤敏明氏、東日本放送社長高木健介氏、NTTファシリティーズ東北支店長岡田良一氏、デュエット代表取締役吉田聰子氏、河北新報社編集局報道部主任清野孝悦氏、野村證券仙台支店長徐浩平氏。何人かの方の熱のこもったお話の一端を少しだけ紹介します。

仙台市助役の加藤氏は、健康都市宣言、地下鉄、政令指定都市の3つの問題に関わってきたことを話され、地方分権とは、地方の時代に合わせて国のシステムを壊し再構築することであり、その意味では「地域主権」と言うべきだと講義されました。学生へのメッセージとして、座り心地の良い椅子に座るのではなく志を高く持ちなさい、たくさんの本を読み多様な価値観を持ちなさい、何よりも人を愛しなさい、と強調されました。七十七銀行の佐藤氏は、企業不祥事と金融機関のコンプライアンスについて講義され、内部統制システムの構築の必要性和コミュニケーション(人との対話)の重要性を強調されました。東北電力労組の関口氏は、労働界の立場から、組織率の低下などを踏まえて労組の存在意義について話されました。また、夢があれば希望がある、希望があれば目標があるとなつがると述べ、夢→希望→目標→計画→行動→実績→反省→進歩→夢といった好循環が描けるようにしようと学生にメッセージを送られました。なお、他の方のお話も紹介しなければなりません、紙幅の都合上省略いたします。

土曜日の午後4時からの講義とあって、受講する学生は60名程度と少なかったものの、その分たくさん刺激を受けたようで、講義は概ね好評でした。後期には、「宮城県の地域産業政策」をテーマに、県職員の方々から講義して頂くことになっています。なお、第1回目には、浅野史郎宮城県知事が講義をされました。こうした講義は、「地域に開かれた大学」の一環として、学生に限らず多くの地域の方々にも聴講していただければと考えています。

工学部

工学部の新入生教育と高大連携プログラム

大学生の学力低下、学力崩壊の嵐は、日本中の大学に吹き荒れており、工学部もまた同じくその中にいます。これらの原因は、80年代に旧文部省が行った学習指導要項の改定、いわゆる“ゆとり教育”であると言われており、それに伴い高校の履修科目の大幅な選択化による高校生の理科離れ、加えて大学入試制度の規制緩和による入試の多様化・複線化が、大学生の学力低下に拍車をかけています。

近年、本学の工学部もその影響を受けて、学力の多様な学生を受け入れなければならない状況に置かれ、2年前よりAO・推薦合格者に対する「入学前教育」を始めています。これは、入学時に最小限身につけていなければならない数学と物理の知識を考慮した問題を、12月から3月まで3回にわたり合格者に郵送して添削指導を行うもので、この添削指導は勉学上の支援を目的としているため、全教員がその指導にあたります。

また、一般入試では、物理や数学 などを選択せずに受験が可能なため、入学時に全入学者を対象とした数学と物理の習熟度を「プレースメントテスト」で確認し、不足の学生に対しては工学部の正規の科目のほかに、物理と数学を中心とした「リメディアル教育」の科目が各学科とも用意されています。

さらに、工学部には新入生の勉学などを個別に支援する「チューター制度」があります。この制度は、工学部の学生としての素養の向上と、勉学上のアドバイスを目的として作られた制度です。

また、新しい試みとして、昨年より高大連携を将来のキーワードと考え、そのプログラムの一環として「出前授業」を行っています。高校から希望があれば、随時工学部の教員が高校へ出向いて授業をするもので、高校生の科学技術への視野を広げ、学習意欲を高めることを目的として、授業内容は最先端技術から基礎理学まで多岐にわたる幅広い内容で構成されています。最近では、工学部の教育内容に対する理解と、学力の高い高校生の期待に応える授業の場を提供することも考えており、昨年は、県内外から23件もの授業の依頼があり好評を得ています。

このように、工学部では十分に工学基礎を身につけた学生の輩出と高大連携をさらに発展させ、社会に開かれた工学部を目指しています。



輝く教育・研究

将来の高密度磁気記録に挑む

工学部(物理情報工学科)教授 後藤隆夫

我々は、鉄と白金との合金 (FePt) を特定の結晶方向に揃えて成長させた微粒子から成る薄膜で、磁化の方向を反転させるために必要な磁場 (保磁力) が5テスラー以上と記録的に大きいことを発見しました。高密度記録では、粒子の微細化によって保磁力が低下し、記録が失われる問題が生じますが、FePtは数ナノメートルの微粒子でも記録が保持できる特性を持つので、将来のハードディスクの材料として現在世界中で活発に研究されています。

International info.

国際交流センターより

東北学院大学の国際交流協定校の一つである、アメリカのフランクリン・アンド・マーシャル大学に、平成14年8月から平成15年5月までの期間、文学部英文学科4年生の須藤恵美さんが留学しました。不安定な世界情勢の中でのアメリカの様子や、そこから感じたことなどを報告していただきました。



アメリカ事情

フランクリン・アンド・マーシャル大学留学レポート

文学部英文学科4年 須藤 恵 美

本学の協定校であるアメリカのフランクリン・アンド・マーシャル大学は、ペンシルバニア州ランカスター市にあります。ランカスターの歴史はとても古く、その歴史とともに、この大学も国内で伝統ある学校として名を連ねています。

コーン畑の広がるのどかな風土の中にキャンパスはあり、世間の喧騒や、不安定な世界情勢を忘れさせるかのようです。しかし、まだ痛々しく残る同時多発テロの傷跡、人々のそれに対する悲しみの深さは大きなものでした。そして、留学中盤に勃発したイラク戦争は、アメリカ側の立場から世界の情勢を見る機会を与えてくれました。武力行使に関して、テレビではアメリカ軍がバグダットに向けてどこまで侵攻に成功したかを放送していました。大学も戦争に関してのディベートを行うために、一日休校になったりしました。私のとっていた授業の一つでも、賛否両論の意見が交わされましたが、アメリカ軍の武力行使が平和のために行われたと考えるアメリカ人の学生も少なくなかったことは、アメリカ国民としての意見の一つであると感じました。

湾岸戦争時、日本でテレビの映像で他人事のように見ていた砲撃の様子が、今、アメリカのブラウン管から放送されると、他人事では済まされない思いがしました。結果として、武力行使という最終決断に達してしまったわけですが、学習面での実りのほかに、平和な国に生まれた幸せや、これからの平和の事を考える貴重な留学体験となりました。

国際交流協定校

- Ursinus College アーサイナス大(アメリカ)
- Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大(アメリカ)
- Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大(ドイツ)
- Pyongtaek University 平澤大(韓国)
- Nankai University 南開大(中国)
- University of Durham ダラム大(英国)
- University of Ulster アルスター大(英国)

問い合わせ先 国際交流センター事務室
TEL 022-264-6425/6404
E-mail IC0@tssc.tohoku-gakuin.ac.jp

Institute for Research and Center info.

研究所・センターより

社会福祉研究所ニュース

社会福祉研究所

社会福祉研究所叢書とオープン・カレッジ講義報告集が3月に刊行されました。研究所叢書は、1993年にそれまでの研究所紀要に代わって発行されたのが第1号となるものですが、今号が第6号となります。この『研究所叢書』には「福祉社会の現在と行方」の表題のもとに5編の論文が収められています。また、オープン・カレッジ講義報告集は、講義を担当された先生方に公開講座終了後にそれぞれのテーマをもとに新たに起こして頂いた原稿を纏めたものになっています。そこには、この講義報告集が単に記録としての報告集という意味をもつこともさることながら、さらに公開講座終了後も改めて学ぶための題材を講座受講生の皆様のお手元に置くことにも意味があるのではないかとという私どもの思いが込められています。

さて、今年度も9月25日から11月27日まで、毎週木曜日の18時30分から、新たな講師スタッフを交えて、新たな内容でオープン・カレッジ「福祉社会論」が開催されます。皆様方のご参加を、心よりお待ち申し上げております。なお、当研究所主催の公開講座は「向老大学」の名称のもとに1980年に始められてから、来年度には25回目(25周年)を迎えようとしております。その際には、ささやかではあってもながしかの記念となる企画をと、現在研究所スタッフ一同今年度の準備を進めながら、知恵をしばっているところです。

問い合わせ先 社会福祉研究所
TEL. 022-264-6362



Library info.

図書館より

貴重図書の紹介

新遺詔書 自馬寶書至若翰現示書26書
(英国)馬礼遜訳 8冊 1813年刊



封面に「耶蘇基利士督我主救者新遺詔書」の題が見えますが、標題で知られます。目録の末に「耶蘇降世一千八百一十三年鑄」の刊記のある木版本で、中国における初の漢訳聖書出版の意義を有する図書です。

18世紀初頭には公認されていた天主教活動も、雍正以降の布教禁止期を迎え急速に衰退へと向かいますが、19世紀に入ると産業革命の勢を背景に、英米の新教宣教師等による布教活動が再開されます。その中国プロテスタント伝道の先鋒とも開祖とも位置づけられていますのが、本書の訳者Robert Morrison(馬礼遜)です。

倫敦伝道会所属のモリソンは、倫敦で中国語を修得(モリソンは澳門で「華英字典」も出版しています。)、更に大英博物館スローン文庫にあった写本の漢訳聖書(新約の部分訳。原本は18世紀初め頃の訳)の転写を終え、それを携えて1807年に広州に来ました。その写本にも依りながら初の漢訳聖書の訳出・出版にとりかかり、1810年の「使徒行書」を皮切りに、三年後の1813年にこの書の刊行を終えました。更には、同士William Milne(米憐)、中国人使徒蔡高などの協力を得ながら引き続き旧約聖書の翻訳に取り組み、訳業を終え版も整った1823年、その「旧遺詔書」と、前の新遺詔書の抄編4本を併せた「神天聖書」(神天上帝啓示旧遺詔書17本、神天上帝啓示新遺詔書4本)をマラッカで印刷、全聖書の漢訳と出版の大業を成し遂げました。

モリソンの漢訳を嚆矢として、以降の中国においては、鉛印技術の普及もあり、上海の美華書館、香港の英華書院等の出版に代表される多くの漢訳聖書を見ることとなります。

問い合わせ先 図書館事務室
TEL. 022-264-6491

協奏、そして共創へ

東北学院同窓会100周年記念行事について

東北学院同窓会は、明治36(1903)年に設立され、今年で100周年を迎えました。同窓会では、今年一年間を「100周年イヤー」と位置づけ、一連の開催行事をただ単なるイベントとしてではなく、同窓生に限らず、一般市民の方々に広く東北学院を知っていただく機会とするために、「開かれた同窓会」「これからの100年を見据えた同窓会」のコンセプトのもとに、参加の呼びかけを行っています。

記念行事としては、4月に開催しました英国イートンカレッジ校による聖歌隊公演、7月25日に行われた記念基金TG交流カクテル&ビアパーティをはじめ、今後の行事が行われます。

- ・10月23日(木) 記念講演会
(講演者の松岡佑子氏はハリー・ポッターの翻訳者です)
- ・11月14日(金) チャリティーゴルフ大会
- ・11月15日(土) 記念礼拝並びに平澤(ピョンテック)大学校
音楽芸術学部演奏会
(平澤大学校(韓国)は東北学院大学の国際交流協定校です)
- ・11月15日(土) 記念式典並びに記念パーティ

問い合わせ先 法人事務局庶務部校友課 TEL.022-264-6468

大学と家庭をむすぶ —後援会総会・地区後援会を開催—

5月24日、新緑が薫る泉キャンパスにおいて、在学生のご父母を対象とする『後援会総会』を開催しました。当日は、1,600名を超える出席者を迎え、総会では、大学の近況や年間の活動方針が説明されました。また、大学礼拝からはじまる「大学開放プログラム」も同時に開催され、多数の方々のご参加をいただくことができました。出席されたご父母からのご意見を踏まえ、今後も大学と家庭の連携を深め、より良い大学を目指して改革を進めていきたいと思っております。

続いて、夏期休暇期間を利用し、北は北海道旭川市、南は静岡県浜松市までの計32会場で、『地区後援会』を開催しました。多くのご父母の方々との交流を深め、ともに大学の現況と今後の方針について考える機会を持つことができました。



『大学開放シンポジウム』を開催

—より効果的な大学開放を実現するために—

5月29日(木)土樋キャンパスの押川記念ホールを会場に、本学と高等教育ネットワーク・仙台が主催となり、「大学開放シンポジウム 地域活性化に役立つ大学開放」を開催しました。

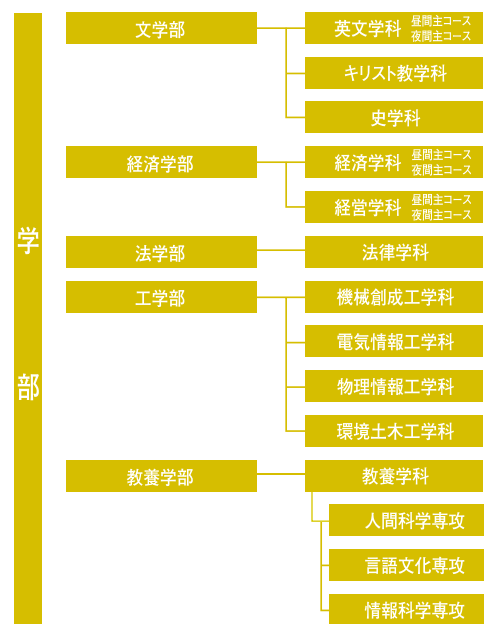
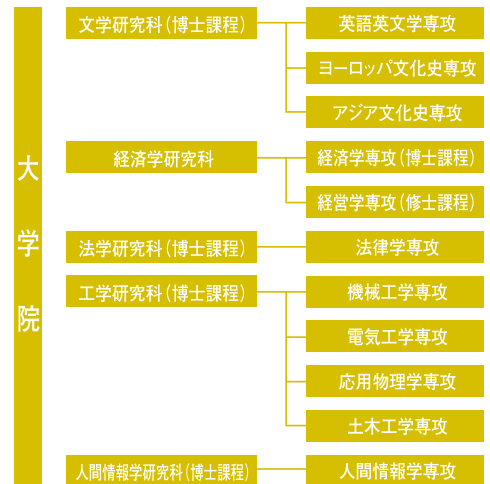
仙台市では、生涯学習の振興を目的に、専門性の高い学習機会を市民に提供するため、仙台地区の高等教育機関と仙台市教育委員会が連携・協力して「高等教育ネットワーク・仙台協議会」を発足しています。同協議会は、仙台地区の18校で組織され、各機関は、「ネットワーク講座」「リカレント講座」を開催し、市民に学習機会を提供しています。

終身雇用制度が崩壊しつつある中で、自らの能力を開発するために生涯学習への関心は高まっており、今や日本にとって、生涯学習の推進は大きな流れとなっています。その生涯学習を積極的に提供していかなければならないのが大学であるといえます。

大学開放を起爆剤として、地域の活性化や活力あるまちづくりを目指すには、生涯教育や成人教育の意義・あり方、現状の課題、大学開放の位置づけ、地域の活性化と大学開放の関連性などについて、地域社会の理解と協力が不可欠です。

今回のシンポジウムでは、大学が地域における主要な生涯教育機関としてどのように位置づけることができるのか、また、自治体や商工会議所、地域の中小企業などと連携し、地域の活性化にどのように寄与できるかについて、意見を交換することができました。

Organization 教学組織



宗教部



Placement info.

就職部より

就職部の今日この頃

学生の出口を担う就職部では、公務員や教育職員の採用なども一段落し、まだ内定を得ていない14年生は、民間企業など、いろいろな選択肢を強いられています。希望を最後まで失わず、「まだ、頑張れるよ!諦めないで!」と、祈る思いで学生個人々人を見守っています。また、早い段階で採用活動を終えていた企業においても、再度、再々度と、求人の発信をしていただくこともあり、このように、声をかけていただけることの有難さを痛感し、感謝の気持ちで一杯です。

3年生に対しては、自己分析や就職活動への準備、求職意識の高揚のために、6月に「就職ミニガイダンス」を実施しました。10月からは、「就職情報セミナー」や「業界研究講座」「企業研究講座」などを実施すると同時に、積極的に会社説明会へ参加するよう指導をしています。荒削りの原石を、短時間では磨くことはできませんが、本学が望む、「あたり前の事をあたり前にできる」ということを常に心がけながら、指導と教育にあたっています。

また、低学年次からの就職支援体制が求められる今日、東北学院大学も今まで以上に、何をなすべきかが常に問われ、そのニーズに応えていかなければならない状況です。「大学生活をいかに充実できたか」、「自分探しができたか」など、将来を見据える選択肢のために、さまざまなチャンスにチャレンジできる場を、就職部では企画し、提供しています。

「頑張れ!就職活動中の皆さん」就職部は応援しています。

問い合わせ先 土樋キャンパス 就職課 TEL.022-264-6481
 多賀城キャンパス 就職係 TEL.022-368-1101
 泉キャンパス 就職係 TEL.022-375-1161

Admissions info.

入試センターより

AO入試(A日程)はじまる

AO入試(A日程)第一次選抜への出願が8月27日から始まっています。9月22日までの出願者数は次のとおりです。(カッコ内は募集定員)

なお、A日程の第一次選抜最終出願締切日は10月14日です。

文 学 部	英文・昼(45)	89名	英文・夜(3)	2名
	キリスト教(2)	2名	史(20)	82名
経済学部	経済・昼(45)	159名	経済・夜(5)	6名
	経営・昼(23)	97名	経営・夜(2)	5名
法 学 部	法律(35)	72名		
教養学部	人間科学(5)	27名	言語文化(5)	26名
	情報科学(4)	18名		
工 学 部	機械創成工(12)	40名	電気情報工(10)	44名
	物理情報工(6)	16名	環境土木工(10)	26名

第一次選抜でA・B・Cの評価を受けた方は第二次選抜に出願できます。第二次選抜は11月14日に行われ、最終的な合格発表は11月21日です。

また、AO入試(B日程)第一次選抜への出願期間は、11月20日から11月26日までです。

問い合わせ先 入試課 TEL.022-264-6455

教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成11年8月1日から平成16年3月31日の期間を定めて、次の事業の完遂に向けて、教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

【募金目標額10億円】

- 1 東北学院育英奨学基金の増額
- 2 東北学院高等学校校舎(家庭科実習室等)整備
- 3 東北学院大学教育・管理棟建設(土樋キャンパス)

詳しくは、東北学院法人事務局財務部会計課までお問い合わせください。
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 TEL.022-264-6467 FAX.022-264-6510

東北学院大学

土樋キャンパス
 大学院:文学研究科、経済学研究科、法学研究科
 学 部:文学部・経済学部・法学部(各3・4年)
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
 TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

多賀城キャンパス
 大学院:工学研究科
 学 部:工学部
 〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号
 TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

泉キャンパス
 大学院:人間情報学研究科
 学 部:文学部・経済学部・法学部(各1・2年)
 教養学部
 〒981-3139 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
 TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学校・東北学院高等学校

〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目9番1号
 TEL.022-227-1221 FAX.022-227-6302

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
 TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号
 TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.14

広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関谷 登
副委員長	総務部長	飯土井公洋
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	石川 雅美
	教養学部助教授	塚本 信也
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	井上 捷二
	総務部総務課長補佐	日野 哲
	総務部調査企画課係長	小原 武久
	総務部調査企画課	石上 貴繁

東北学院大学広報誌『OTRANOS(ウーラノス)』に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

発行日は、5月15日・10月20日・2月20日です。

発行日 平成15(2003)年10月20日
 編 集 東北学院大学 広報誌編集委員会
 発 行 東北学院大学
 〒980-8511
 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
 TEL.022-264-6424 FAX.022-264-6364
 URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>
 E-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp
 印 刷 ㈱エイエイベー



古紙利用率100%再生紙を使用しています。

この印刷用紙にやさしい植物性大豆インキを使用しています。